

落雷事故を未然にふせぐために

気象情報の収集が避雷対策の出発！(前日から気象情報に注意)

雷の危険性

雷の電流は、一般家庭の数百～数万倍

雷の直撃を受けると80%が死亡

雷の発生・接近

雷鳴が聞こえたら
または
頭上で急に発達した黒雲

雷の発生・接近を知るには！

AMラジオの活用
50kmほど離れた雷からカリカリ
という雑音をキャッチ

直ちに安全な場所に

避難・待機



【運動場やプールにいるとき】
校舎・体育館など

【校外にいるとき】
バス・電車・鉄筋コンクリート建築など

雷雲が遠ざかり、雷鳴が聞こえなくなっても、20分くらいは安全な場所で待機

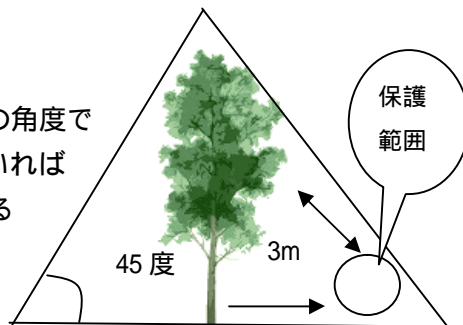
気象台等からの情報収集

緊急避難的な場所(落雷を受ける確率はゼロにはならない)

橋の下、避雷針あるいは高い物体の保護範囲内は、緊急避難的な場所として活用できるが、落雷を受ける確率はゼロにはならない。

保護範囲(右図参照)

高さ5m以上30m以下の高い物体に対し、木の一番高い部分を45度の角度で見上げた範囲内かつ、その物体から3m以上離れた場所でしゃがんでいれば比較的安全である。(木の一番高い部分までに、途中で枝・葉がでている場合は、その枝・葉からも3m離れる)



【注意】木・柱の真下には行かない。側撃の可能性あり

側撃(落雷を受けた物体から放電を受けること)

情報収集について

大阪管区気象台 <http://www.osaka-jma.go.jp/>

日本気象協会 <http://tenki.jp/>

ウェザーニュース <http://weathernews.jp/thunder/>

雷に関する防災気象情報は「注意報」までしかない(「警報」はない)

(引用文献『雷から身を守るには - 安全対策Q & A - 改訂版』 監修:日本大気電気学会)